

「現在の研究について」

明海大学不動産学部准教授 西村愛

・主要研究論文：「持続可能な地区の認証制度に関する研究—フランスのエコカルティエ認証制度の成立過程を対象として—」

私は地球環境問題に対する都市的対応策を研究の専門としており、これまでは主に地区スケールの環境評価認証制度の在り方をテーマとして参りました。特にフランスの制度であるエコカルティエ認証制度を参照しながら、地区において環境パフォーマンスと併せて社会経済的側面を含めた総合的な地区の価値向上を促進する方策について考察しています。

特に上記論文においては、従来の環境評価認証制度が一般的には外部に対する性能の可視化という機能を期待されていますが、これに加えて、ステークホルダー間での協議プロセスを通じて目標ノウハウを共有し合意形成を図るための手段として機能することの重要性も示されていることに着目しております。本論文では、設計、計画、参加、運営の事業プロセス全体を支援するための手法を「プロセス支援ツール」と定義し、エコカルティエ認証制度を対象としてその制度的成立過程と活用実態を総合的に分析することで、地区スケールの環境評価認証制度が機能するための必要な条件について明らかにしました。

その結果、エコカルティエ認証制度はその成立過程において、社会経済面の統合・地域への適応・多様な主体の参加といった 3 つの性質を備え強化することで、プロセス支援ツールとしての機能を果たしてきたことが明らかにされました。このことにより、地区スケールの環境評価認証制度を新たに創設する際、評価認証の仕組みやそれを補完する技術的支援の枠組みの構築等を通じて制度が上記の 3 つの性質を備えることができれば、プロセス支援ツールとしての機能を果たすことが可能になるとの結論が得られております。

なお、最近の査読付き論文の代表的なものは以下のとおりです。

・西村愛・瀬田史彦(2021)「フランスのエコカルティエ認証制度における認証の仕組みと認証地区における環境配慮手法の特徴」公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 Vol56. No2, pp324-333 【査読付き】

https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/56/2/56_324/_article/-char/ja/

現在は主に、環境配慮型地区の管理段階における実態として生じている問題とその解決策の在り方について研究を進めております。

地域課題別エコカルティエ事例—Before

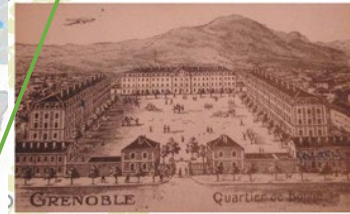
②工場跡地開発型

→生活空間としての再価値化
(イシールムリノ市)



①既存地区更新型

→市内中心部の再活性化
(グルノーブル市)



③郊外開発型

→孤立地区の都市への統合
(ボルドー市)



④住宅改修型

→荒廃社会住宅地の再生
(リヨン市)



➤ 主な地域課題が異なる地区
➤ 制度の改善に寄与した事例、
①～④は実施年順

地域課題別エコカルティエ事例—After

②工場跡地開発型



①既存地区更新型



③郊外開発型



④住宅改修型



「ゼミ活動紹介」

明海大学不動産学部准教授 西村愛

■講義内容

「環境配慮まちづくり」「国際都市政策」

世界全体で地球環境問題が深刻化する中、環境配慮型（省エネ、水保存、廃棄物削減、緑地確保等）の都市・不動産の形成が求められています。西村ゼミでは、環境面とともに安心安全で快適な社会、経済面も考慮した都市・不動産の在り方について、国内外の事例を通じて、主体的に考察する力を養うことを目指します。

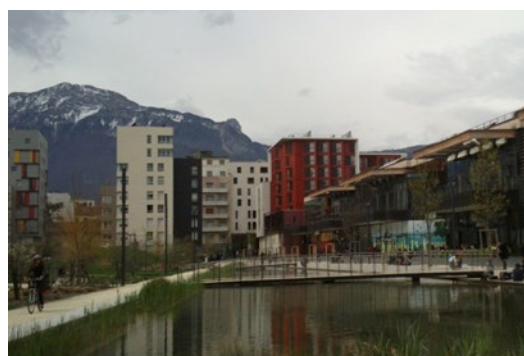
・ゼミでは、環境、社会、経済面で課題を抱える地域・地区事例を取り上げながら、学生間や教員との議論を通じて、学生は課題への対応策を自分なりに検討し、授業での学びや対応策の提案を発表することにチャレンジします。

・ゼミを通じて、現状分析、課題抽出、既往研究・現地調査、他者との議論、対応策の提案、といった都市・不動産を考察する上で、重要となる手順を習得できます。また、ヨーロッパ、アジア、アフリカ等国例も参照することで、地球規模課題や地域課題への多様なアプローチを理解し、自分の思考や視野を拡大できます。

<地区事例>



ふなばし森のシティ（日本）



ザック・ドゥ・ボンヌ（フランス）

学生の皆さんが興味・関心を持つ事柄を深掘りしていくことを目指しています。